佐久市埋蔵文化財調査報告書第32集

HIGASHINOWARI

東ノ割

佐久市大字下平尾東村遺跡群東ノ割遺跡調査報告書

1994. 3

株式会社　平和不動産

佐久市教育委員会

Ｈ１号住居址遺物出土状態（南方から）

例　言

1　本書は、平成４年度に発掘調査を実施した長野県大字下平尾に所在する東村遺跡群東ノ割遺跡の発掘調査報告書である。整理作業・報告書刊行は、平成５年度に行った。

2　本調査は宅地造成事業に関わり、株式会社平和不動産から委託を受け、佐久市教育委員会が実施した。

3　遺跡の所在地　　佐久市大字下平尾字東前原東ノ割1492、1493

4　調査期間および面積

試掘調査－平成４年５月19日

発掘調査－平成４年５月21日～平成４年５月26日

整理調査－平成６年２月１日～平成６年３月14日

開発面積－2,013㎡　　試掘調査－355㎡　　発掘調査－65㎡

5　本書掲載図の作成は、小林よしみ、柳沢豊志子が担当し、執筆・編集は林　幸彦が行った。

6　本書および関係資料等は、佐久市教育委員会で保管している。

目　次

表紙写真

例言

目次

Ⅰ　調査の概要

1　調査の経緯と経過……1

2　調査の体制……1

Ⅱ　遺構と遺物

1　Ｈ１号住居址……2

挿図

第１図　東ノ割遺跡と周辺遺跡……1

第２図　東ノ割遺跡調査全体図……2

第３図　Ｈ１号住居址全景……2

第４図　Ｈ１号住居址実測図……3

第５図　調査スナップ……4

第６図　東ノ割遺跡の遠景……4

第７図　土塁状遺構土層写真……4

第８図　Ｈ１号住居址出土土器実測図……5

第９図　Ｈ１号住居址出土土器実測図……6

第10図　Ｈ１号住居址出土石器実測図……6

第11図　Ｈ１号住居址出土遺物写真……6

第12図　土塁状遺構土層実測図……7

第13図　東ノ割遺跡位置図……8

Ⅰ　調査の概要

1　調査の経緯と経過

東ノ割遺跡は東村遺跡群の南東端にあり、標高723ｍを測る。東村遺跡群は佐久市下平尾の現集落東村の家並みとほぼ重なって展開している。本遺跡群は霞川右岸に沿った比高15ｍの南北に細長い浅間第一軽石流がのる台地上にある。遺跡群の北端では山伏木遺跡が発掘調査されており、縄文時代、平安時代の住居址群と中世近世の遺構が検出されている。今回、株式会社平和不動産による宅地造成が計画され、平成４年５月に試掘調査を実施した。その結果、新設進入道路下にあたる部分から竪穴住居址１棟が確認されたが、協議の結果発掘調査を実施することとなった。

2　調査体制

◎調査受託者　教育長　大井季夫　　◎事務局（平成５年度）　教育次長　奥原秀雄

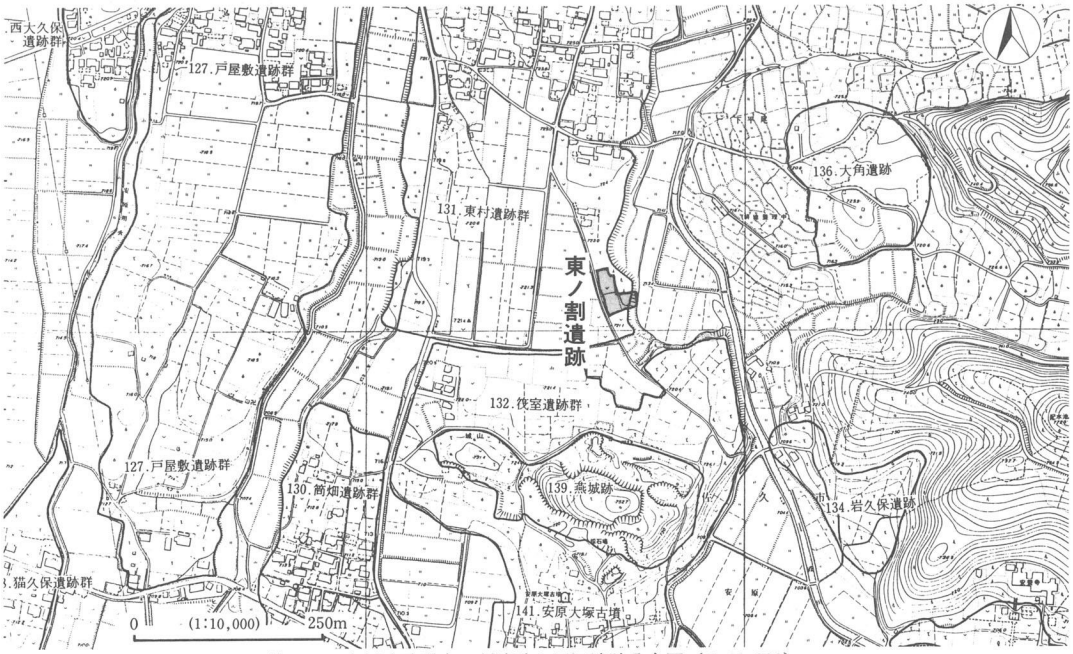
埋蔵文化財課長　上原正秀　　管理係長　小林泰子　　埋蔵文化財係長　草間芳行

埋蔵文化財係　高村博文　林　幸彦　三石宗一　須藤隆司　小林真寿　羽毛田卓也

富沢一明　上原　学

調査担当者　林　幸彦　調査主任　佐々木宗昭　調査副主任　堺　益子　調査員　遠藤しづか

並木ことみ　羽毛田香里　橋詰信子　小林よしみ　柳沢豊志子　関口美咲

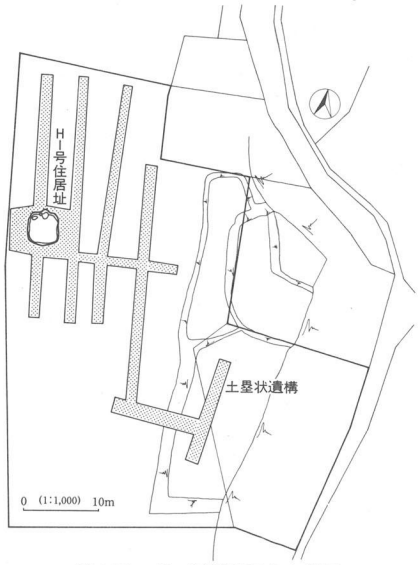


第１図　東村遺跡群東ノ割遺跡と周辺遺跡分布図（1:10,000）

II　遺構と遺物

本遺跡の試掘調査で確認されたのは、竪穴住居址１棟のみであった。また、トレンチからの出土遺物も少なく、調査地点の北方にある現在の集落が遺跡の中心にあたるものと思われる。

調査地点とすぐ南に近接する水田は比高が２～３ｍを測り、北方から伸びる低地がこの地点で東方の霞川に向きを変えたものである。したがって、本調査地点が東村遺跡群の南端となる。



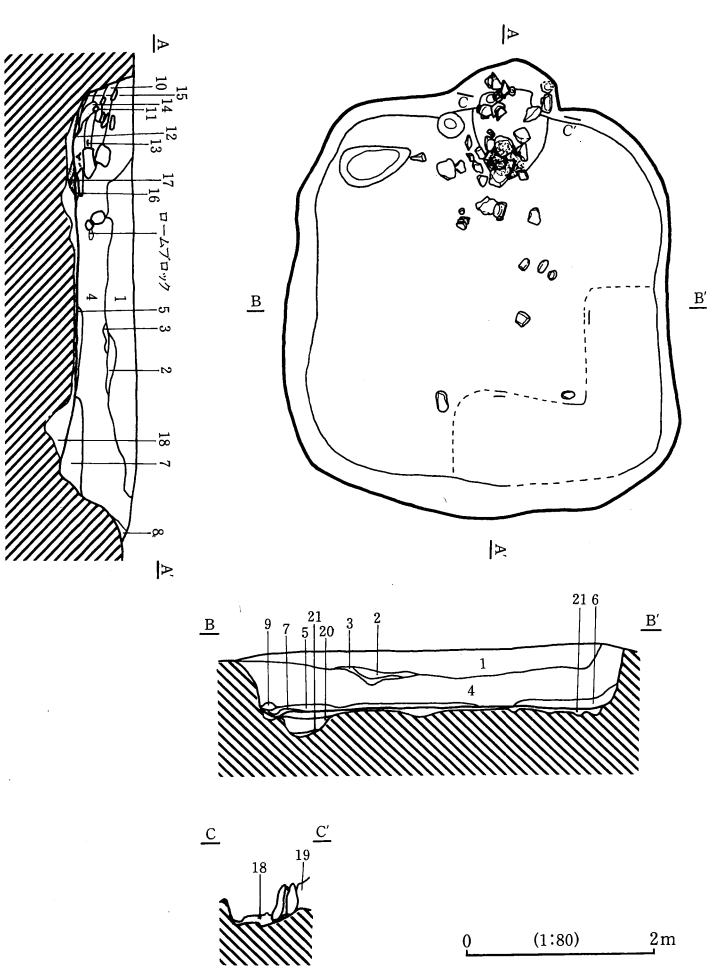
第２図　東ノ割遺跡調査全体図

１　Ｈ１号住居址

本址は調査区の西端、霞川に臨む断崖の縁より60ｍ西によった地点で検出された。

南北4.5ｍ東西4.0ｍの隅丸方形を呈する。壁残高は48～60㎝を、南北軸方向はＮ－10°－Ｗを指す。床面は総じて堅緻であった。床面下の掘り方は、四方の壁寄

第３図　Ｈ１号住居址全景（掘り方、南方から）



1層〔黒褐色土層〕
炭化物を含む。φ1.5cm～3cmのパミスを少量含む。φ5cmの小石・赤い石も含む。

2層〔黒色土層〕
炭化物を多量に含む。φ0.5cmのパミスを少量含む。

3層〔黒褐色土層〕
φ0.5cmの小石・赤い石を含む。

4層〔黒褐色土層〕
φ0.5cm～4cmのパミスを多く含む。 3cm～5cmのものが多い。黄色ローム粒子を含みしまりあり。

5層〔極暗褐色土層〕
φ3cm～5cmのパミスを含む。

6層〔暗褐色土層〕
φ0.5cm～3cmのパミスを含む。ローム粒子を多量に含む。しまりあり。(ベッド状遺構構築土?)

7層〔暗褐色土層〕
4層の土と黄色ロームがブロック状に含む。φ0.5cm～1cm大のパミスを含む。しまりあり。

8層〔暗褐色土層〕 ローム粒子を多量に含む。

9層〔にぶい黄褐色土層〕 黄色ローム主体。

10層〔暗褐色土層〕 黄色ローム粒子・小石を含む。

11層〔暗褐色土層〕 灰・焼土を含む。

12層〔黒褐色土層〕 小石・焼土粒子を少量に含む。

13層〔暗赤褐色土層〕 焼土・粘土を多量に含む。

14層〔暗褐色土層〕 焼土粒子・パミス・小石を含む。

15層〔にぶい赤褐色土層〕 焼土を多量に含む。灰を含む。

16層〔暗褐色土層〕 焼土。(貼床が焼けたもの)

17層〔明赤褐色土〕 焼土。小パミス少量。(貼床が焼けたもの。)

18層〔にぶい黄褐色土層〕 ロームブロック状に多量に含む。パミス多量に含む。

19層〔暗褐色土層〕 カマド構築材

20層〔黒色土層〕 炭化粒子を多量に含む。きめ細かい。ローム粒子・小パミス少量含む。

21層〔黒色土層〕 炭。

第4図 H1号住居址実測図

りが深く、中央付近は２～５㎝と浅い。それぞれの壁中央付近は、深さ20㎝を測る土坑状の堀り方となっている。貼り床は黄色系統の地山のロームと黒褐色土を主としている。

明確な柱穴は認められず、ピットは１個だけカマド西脇から検出された。貼り床下から検出された東西壁よりの２個のピットは柱穴の可能性がある。

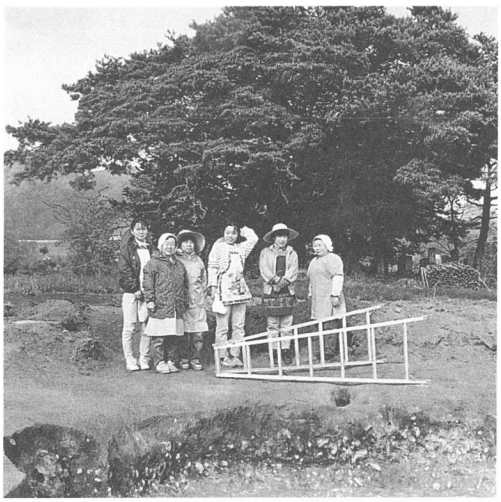
覆土は２層に大別される。暗褐色の６層上面はひじょうに堅く、ベッド上遺構とも思われるが、明確ではない。

カマドは、北壁中央に設置されていた。ほとんど破壊されており構築材の面取り軽石が、カマド前方の床面に接したり10～20㎝浮いた状態で散乱していた。袖の基部には小穴が４個みられ２個の袖石が残存していた。カマド付近の土層中に粘土がみられ、面取り軽石を芯とし粘土で覆って構築されていたと考えられる。16・17層の焼土は、貼り床が焼けたもの。

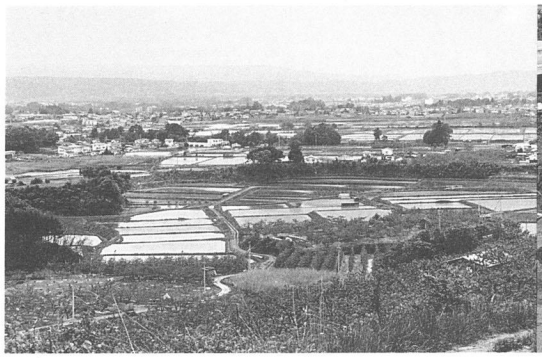
出土遺物には、土師器坏・小型甕・長胴甕、須恵器坏・甕、磨石、鉄滓、鉄器がある。図示できたのは墨書土器を含む土師器坏の数が多いが、図示しえなかった須恵器坏の小片も多くみられる。墨書土器は、５点ある。

第８図９・24・25が貼り床下から、第８図27～29、第９図30～33がカマド燃焼部面あるいはカマド東脇・焚き口付近の床面上から出土した。第８図６・７・８・10・11はカマド西脇や東脇の床面上から、第８図１～３・12・14～18・21・23は覆土第４層中から出土した。第９図２はカマド東脇の床面上、１は南西部の床面から検出された。他は覆土第１～３層の出土である。

もっとも多く図示できた土師器坏は底部が回転ヘラナデされる22を除き、すべてが内面黒色処理

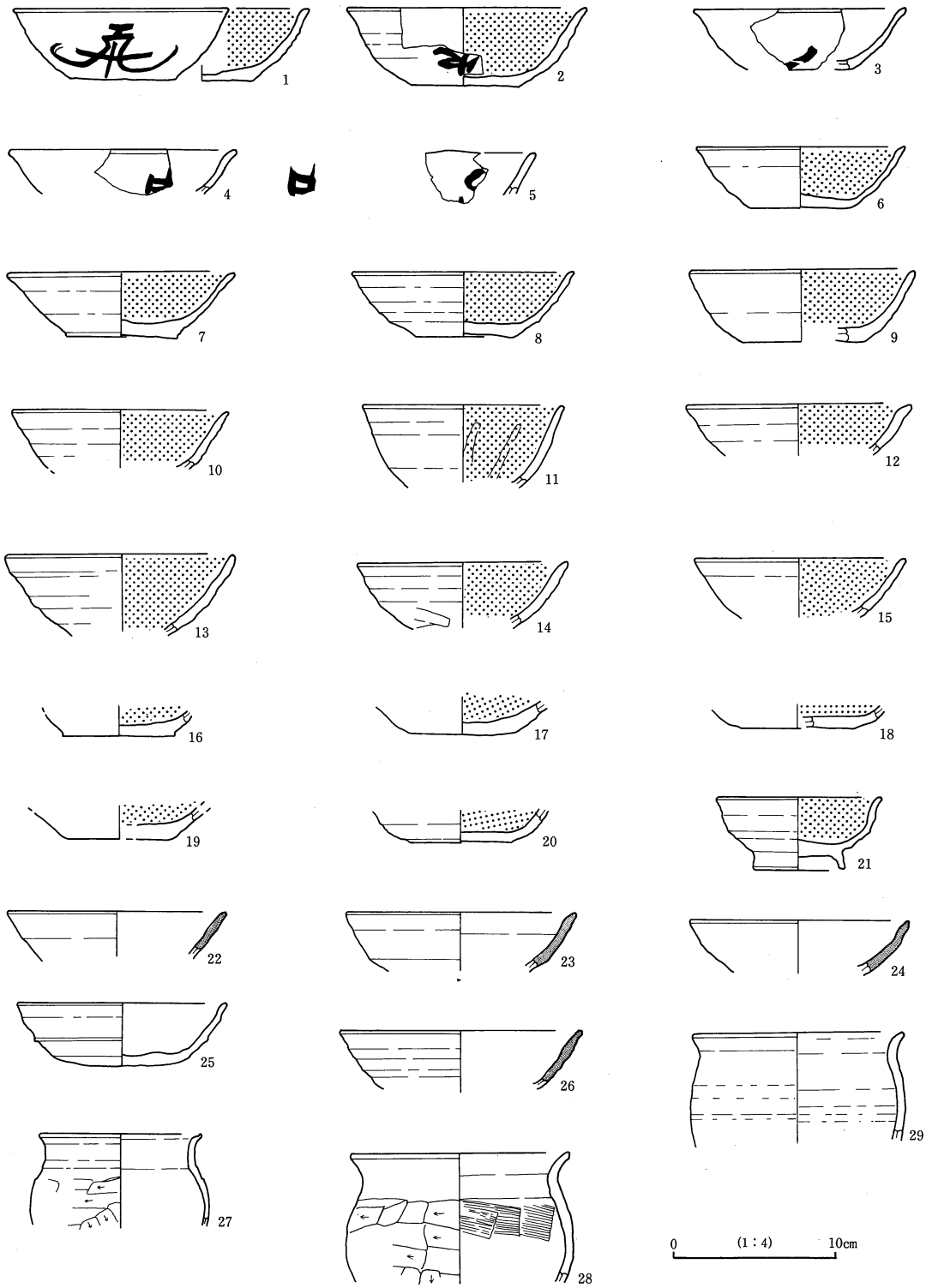


第５図　調査スナップ

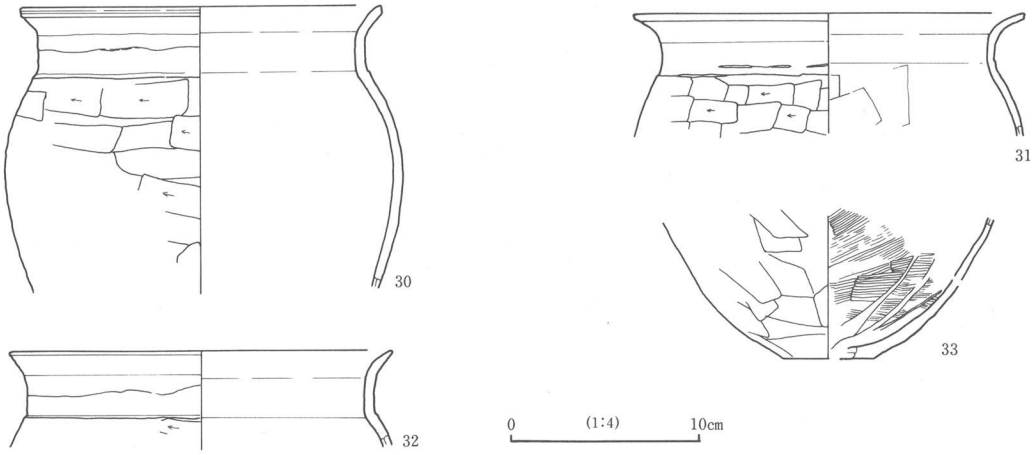


第６図　東ノ割遺跡遠景（東方から）

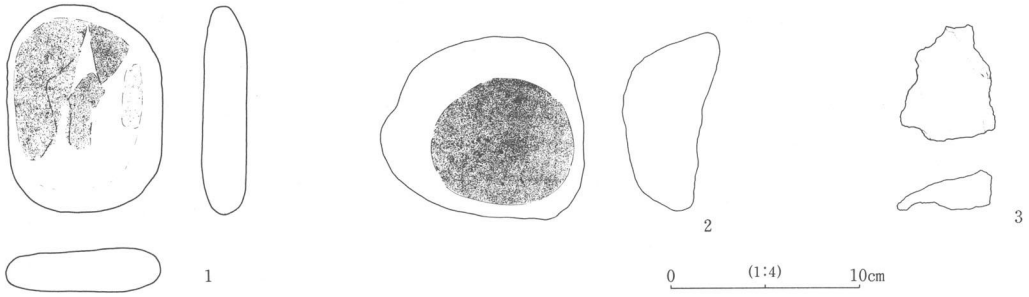
第７図　調査スナップ



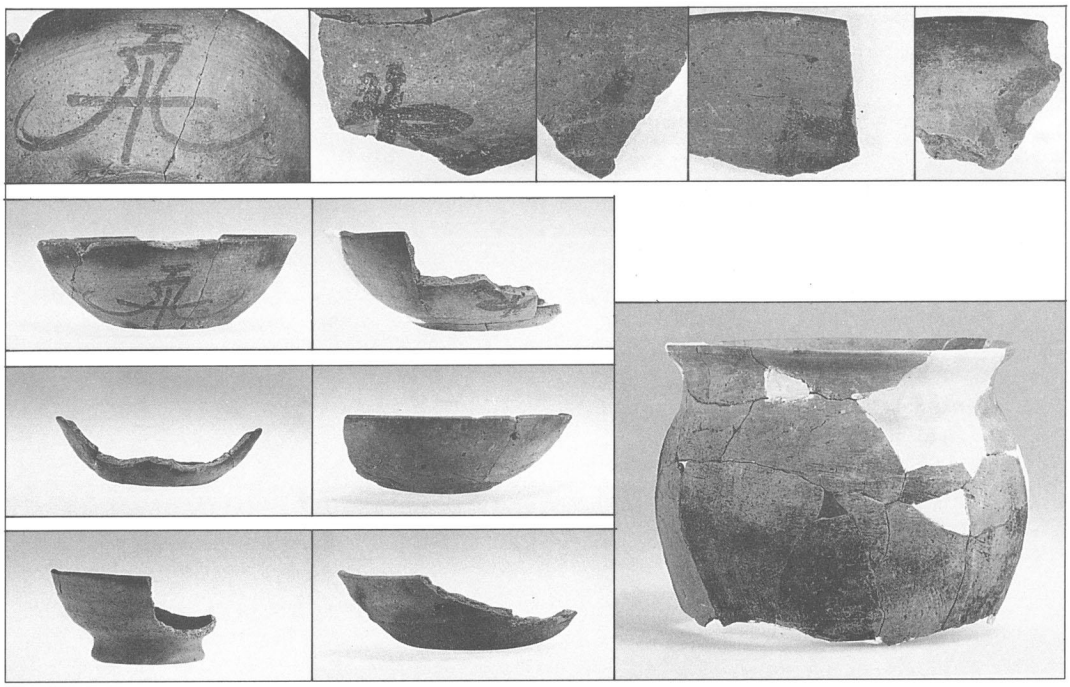
第８図　Ｈ１号住居址出土土器実測図



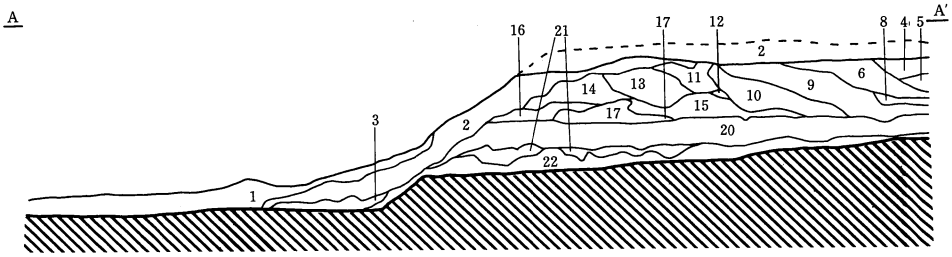
第９図　Ｈ１号住居址出土土器実測図

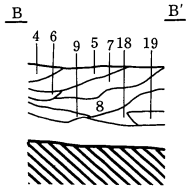


第10図　Ｈ１号住居址出土石器実測図



第11図　Ｈ１号住居址出土遺物写真





1層〔明黄褐色土層〕耕作土

2層〔黒褐色土層〕耕作土

3層〔黒色土層〕耕作土

4層〔褐色土層〕ロームブロックを多量に含む。φ0.5cmのパミス少量含む。黒色土ブロック微量含む。φ0.5cmの礫少量含む。

5層〔褐色土層ロームブロック・φ1cmのパミス多量に含む。黒色土ブロック微量に含む。軽石φ0.5cm礫少量含む。

6層〔褐色土層〕φ1cmのパミス・φ0.5cmのパミス少量含む。黒色土粒子・ロームが主体

7層〔褐色土層〕黒色土ブロック・φ0.5cmのパミス少量含む。黒色土粒子・ロームが主体

8層〔暗褐色土層〕黒色土粒子・ブロック・ローム粒子多量に含む。φ0.5cmパミス少量含む。

9層〔黄褐色土層〕φ0.5～1cmの礫少量含む。ロームが主体

10層〔明黄褐色土層〕φ1cmの礫少量含む。黒色土ブロック微量に含む。ロームが主体。

11層〔黄褐色土層〕φ0.5cm礫少量含む。ロームが主体。

12層〔暗褐色土層〕ロームブロック少量含む。

13層〔褐色土層〕φ0.5～1cmの礫多量に含む。φ2cmのパミス・黒色土粒子微量に含む。ロームが主体

14層〔褐色土層〕黒色土ブロック少量に含む。φ0.5～2cm礫多量に含む。φ2cmパミス微量に含む。ロームが主体。

15層〔黄褐色土層〕φ0.5～1cm礫多量に含む。φ2cmパミス微量に含む。ロームが主体。

16層〔褐色土層〕φ1～2cm礫多量に含む。φ2cm大パミス微量に含む。ロームが主体。

17層〔黄褐色土層〕φ0.5cmの礫少量含む。φ2～5cmパミス微量に含む。ロームが主体。

18層〔黒色土層〕φ0.5～1cmの礫少量含む。φ0.5cmパミス微量に含む。

19層〔褐色土層〕黒色土ブロック・ローム粒子少量含む。黒色土粒子多量に含む。φ0.5cmパミス微量に含む。

20層〔暗褐色土層〕φ0.5～1cmの礫を多量に含む。旧耕作土？

21層〔暗褐色土層〕φ0.5～1cmの礫を多量に含む。φ1cmのパミスを微量に含む。

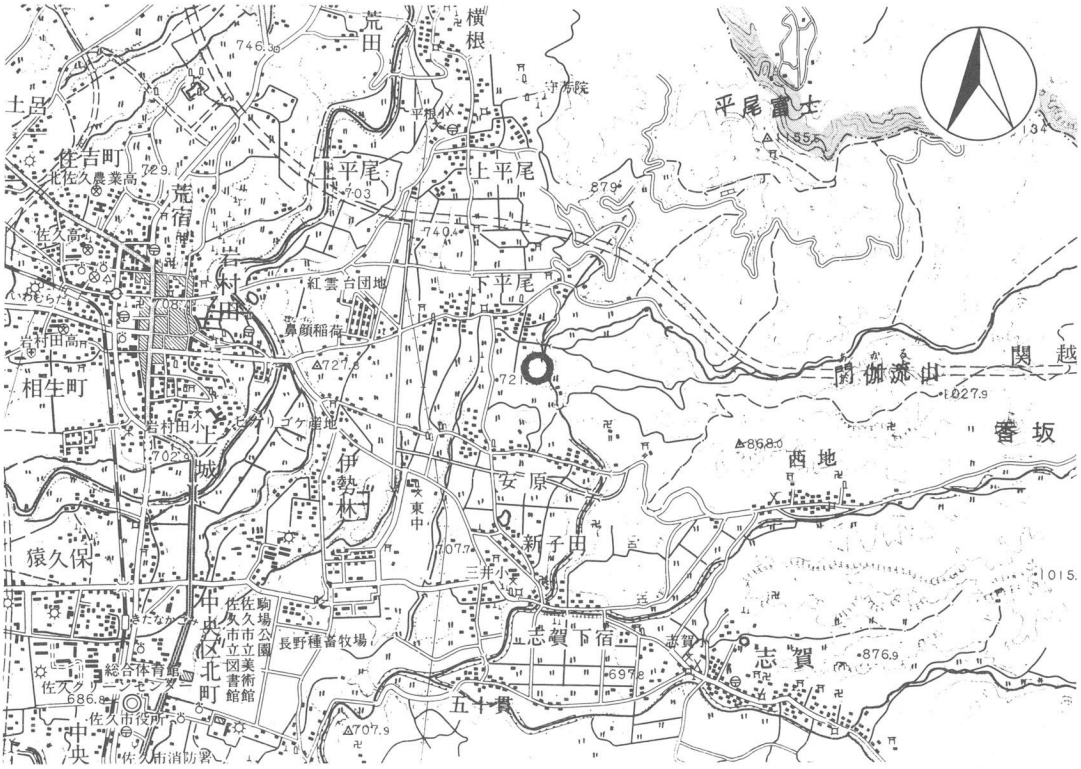
22層〔黄褐色土層〕φ0.5cmの礫を多量に含む。φ3cmのパミスを微量に含む。ローム主体。

0 (1:80) 2m

第12図　土墨状遺構土層断面図

され、底部はすべて回転糸切り痕をみせている。須恵器坏は図示した以外に、回転糸切りの底部片6点がある。土師器甕は「武蔵型」で、コの字形口縁をもち長胴を呈する。土師器小型甕には、ロクロ調整を施すものがある。

以上の土器群は、平安時代（9世紀中頃）の様相をみせているといえよう。



第13図　東村遺跡群東ノ割遺跡位置図

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第１集　『金井城跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第２集　『市内遺跡発掘調査報告書1990』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第３集　『石附窯址群III』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第４集　『大ふけ遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第５集　『立科Ｆ遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第６集　『上曽根遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第７集　『三貫畑遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第８集　『瀧の下遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第９集　『国道141号線関係遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第10集　『聖原遺跡II』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第11集　『赤座垣外遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第12集　『若宮遺跡II』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第13集　『上高山遺跡II』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第14集　『栗毛坂遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第15集　『野馬久保遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第16集　『石並城跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第17集　『市内遺跡発掘調査報告書1991』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第18集　『西曽根遺跡』　（１月～３月）
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第19集　『上芝宮遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第20集　『下聖端遺跡III』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第21集　『金井城跡III』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第22集　『市内遺跡発掘調査報告書1991』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第23集　『南上中原・南下中原遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第24集　『上聖端遺跡』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第25集　『上久保田向IV』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第26集　『藤塚古墳群・藤塚II』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第27集　『上久保田向III』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第28集　『曽根新城V』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第29集　『山法師遺跡Ｂ・筒村遺跡Ｂ』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第30集　『市内遺跡発掘調査報告書1992』
佐久市埋蔵文化財調査報告書　第31集　『山法師遺跡Ａ、筒村遺跡Ａ』

佐久市埋蔵文化財調査報告書第32集
東ノ割遺跡発掘調査報告書
1994年３月
編集・発行　佐久市教育委員会
〒384-01　長野県佐久市大字中込3056
埋蔵文化財課
〒385　長野県佐久市大字志賀5953
TEL　0267-68-7321
印　刷　所　㈱佐久印刷所